

全港湾小名浜支部
部長 松村海斗

今回第 26 回青年対策交流会に参加してきました。

松永書記長から協定について、千葉中執から災害に関するお話をしていただきました。36 協定に関しては特定の方に業務が集中しないよう、計画的なスケジュール管理を行うことが必要だと感じました。人員配置の適正化と管理職の労務管理の徹底です。特定の労働者に負担が集中しない体制づくりと、労働時間の把握が不可欠だと考えました。三六協定の上限を守るためには、単に協定を締結するだけではだめだと感じました。

まず、「産業全体で賃金が上がるのは安心感がある」という意見がありました。次に、「企業間の賃下げ競争を防げるのが良い」という意見もありました。賃金を下げてコスト競争することを防ぐ役割があるという考えです。一方で、「業績の良い企業とそうでない企業で負担に差が出るのではないか」という懸念もありました。また、「中小企業には少し厳しい場合もあるのではないか」という現実的な意見もありました。

これらの意見から、産別協定の賃上げは労働者の安定につながる一方で、企業側の負担とのバランスも重要であると考えられます。災害に対して今後どのような行動をするのか

今回のテーマについて

災害を知らない世代に教訓を伝えることです。

時間が経つと、災害の記憶は少しずつ風化して行きますので東日本大震災のような大きな災害から学んだことは、決して忘れてはいけません。ただ出来事を伝えるだけでなく、「何が大変だったのか」「何があれば助かったのか」という具体的な経験を共有することが、命を守る行動につながると思います。避難経路やハザードマップを多くの人に知ってもらうことです。いざという時、人は冷静に判断することが難しくなります。だからこそ、普段から避難場所や経路を確認し、共有しておくことが重要です。

過去から学び、今備え、未来へ伝えていくことで、守れる命があります。できることから行動していきたいです。学習も含めて全国の仲間と交流することができ有意義なものになりました。